海外派遣報告

現地採用教員の先生方とのかかわりについて

倉敷市立茶屋町小学校　　中原　寛之

コロンバス日本語補習校で過ごした３年間は、現地採用教員の先生方とのかかわりがその大部分を占めたと言っても過言ではありません。ここでは、私がどのように先生方とかかわってきたのか、具体的にお話しさせていただきたいと思います。

まず平日は、先生方とお会いできないことの方が多いので、かかわりの中心はメールないしは電話ということになります。実際は特にメールに頼ることが多かったのですが、表情や口調で細かいニュアンスを伝えることができない分、思いが十分に伝わらずに誤解を招いてしまったこともありました。それ以降は、メール文の表現により気を遣うとともに、送信前に再チェックしたり校長先生に見ていただいたりして、トラブルを未然に防ぐよう心がけました。

また、平日に事務所に来て仕事をされる先生方に対しては、時間を割いてしっかりコミュニケーションを図りました。授業の流し方や教材づくりの相談はもちろんのこと、子どもや保護者との接し方や教員同士の人間関係の相談に至るまで、じっくりと話し合って問題を解決することができるよう努めました。その結果、多くの先生方としっかりとした信頼関係を築くことができ、その後の学校経営に大きく寄与することになりました。

そして、授業の行われる土曜日には、普段直接お話しすることができない先生方を中心に、授業参観を軸にしてしっかりとコミュニケーションを図りました。始業前は全ての教室を確認して回り、その際に先生方と挨拶や会話をしっかりと交わしました。授業は計画を立てて均等に参観するよう心がけ、よい所を中心に気づいたことをできるだけ多く伝えるようにしました。「授業参観シート」という用紙に記入してお渡ししたり、休み時間や放課後に直接お伝えしたり、後日電話やメールでお伝えしたりと、様々な方法で確実に伝えるよう努めました。先生方の多くは授業実践に不安をお持ちなので、この取り組みは大変喜ばれましたし、先生方の授業力アップにつながったと思っています。

このような形で先生方とのコミュニケーションを深めた結果、前述したように先生方との人間関係がどんどん深まっていき、３年間の間にとても強固なものになりました。初めての教頭職を何とかやり抜くことができたのも、この人間関係がベースにあったからこそです。今後は、この３年間で培った人間関係づくりのスキルを生かし、新しく赴任した学校で頑張っていきたいと思います。